

あなたのそばで 夢みる数字新聞

特集「絆きずな」

昨年は震災をきっかけに、あらためて『絆』が見直された一年でした。家族や友人、仲間など、日々の暮らしのなかには、さまざまな人とのつながりがあります。今回の特集をおして、もういちど皆さまが、身近にいる大切な方への想いを馳せるきっかけとなれば幸いです。

インタビュー

アーティスト キマグレンさん

音楽をとおして元気を届けてくれるキマグレン。返子を拠点に、LOVE(愛)+LIFE(人生)+LOCAL(地元)という3つの「L」をテーマに活動するおふたりから、『絆』についてメッセージをいただきました！

おふたりが『絆』を感じるのはどんなときですか？

KUREI(以下、K)ー同じ目標を持つ仲間とのハイタッチとか、抱き合って「やったあ」といいうとき。多くを語らなくても共有できる瞬間がありますね。

ISEKI(以下、I)ーライブで色んな土地に行つてステージに立つとお客様から「待ってたよ」とか「お帰りー」て声をもらうんです。実家に帰ると「ただいま」「おかえり」って一言だけで家族とのつながりを感じるのと同じ空気分。そういう時に僕は『絆』を感じますね。

「絆」といえば、KUREIさんとISEKIさんの間の「絆」がありますね。

Kーもう17年近く一緒にいるんで、99%兄弟みたいなもので、お互いの家族のこともよく知ってる。僕が、うちの妹と最近話してないなああって言つたら、ISEKIが「俺、この前話したよ」と(笑)。

Iー今はもう、ケンカもほとんどない。意見を言い合うという感じですよ。

お互い望んでるものがわかってくるんですよ。こういう言い方がきらい、とか。

Kーそう考えると、『絆』って思いやりなのかな。自分の表現をおしつけるのではなく、相手のことを考えて行動するもの。家族でも、仲間でも同じかもしれません。

被災地でも様々な活動をされています。音楽を通じて子どもたちとの交流を感じましたか？

Kー一言で言うと、強い。年齢を重ねると、いろんなことを経験したり見たりして、逆に弱くなつていく面もあると思うんです。でも、子どもたちは悲しんでいる大人たちのそばでワーワー笑つて、一生懸命走つてる。

Iー僕自身、震災に関して質問をされると、最初の頃は言葉に詰まっていたんだけど、今は素直に答えることができる。それは被災地で出会った子どもたちのおかげです。子どもは自分では気づいていなくても、いろいろなものを発信していて、僕らに元気をわけてくれる。



きまぐれん 返子育ちの幼なじみであるISEKI(Vo.&G.)とKUREI(Vo.)の2人で、2005年に結成。同年返子海岸に海の家ライブハウス(現「音霊 OTODAMA SEA STUDIO」)を立ち上げ、自らもアーティストとして出演することになったのが結成のきっかけ。震災後にリリースされた『蛍灯』の英語バージョンが映画「311:ここに生きる」の主題歌に。2月からアコースティック・ツアーが決定。

いまの子どもたちにメッセージをお願いします。

Kーとりあえず、やりたいと思ったことは何でもやってみたらいい。やっぱり何事も飛び込んでみて始まることが多いんじゃないかな。自由なんだよ！と、まず子どもの頃の自分に言つてやりたい(笑)

Iー僕は昔を振り返ると、すごく一杯だった。だから、どんな形でもみんな一生懸命やつてると思うんですよ。その頑張りに対してムダじゃないよ、と言いたいですね。ムダになることはひとつもない。遊んでもいいし、力を抜くときがあつてもいい。自信を持ってやってください。

みんな、誰かとつながっている

横

浜銀行に貼られたポスターをご覧ください。左側の数字「57.3」。これは、震災後に全国の人に向けて行われた意識調査で「人との『つながり』や『絆』を、以前よりも大切だと思ふようになった」と答えた人の割合「57.3%」をあらわしています。2011年は、サッカーワールドカップで世界1位となったことで、この数字が見せてくれた仲間の『絆』も印象的でした。また、年末に京都の清水寺で発表される、世相をあらわす漢字一文字にも『絆』が選ばれるなど、2011年は家族や友人など身近な人との関係を大切にしていた人はもとより、あまり意識をしてこなかった人にとっても『絆』のありがたさを実感し、見直す機会になったと思います。震災から、もうすぐ1年。身のまわりの、さまざまな『絆』を大切にしながら、より深まった家族の『絆』で未来を担うことも夢も、さらに応援していきましょ。

それゆけ！ 撮影隊



今

特別編

今回の店頭ポスターと新聞表紙を飾った。まるい円。よくみると、たくさんの方が手をつないでできています。ステーションは川崎市の臨海工業地帯にある「東扇島東公園」。飛行機や貨物船の行き交う姿も眺められる。圧巻のロケーションです。天候不良による日にちの変更があったにもかかわらず、『大切な人とポスターになるうー』という掛け声のもと、数字新聞の読者の方をはじめ、たくさんの方にも達とそのご家族、お友達など約120名が大集合(ベットや自転車まで)！みなさん、ありがたうございます！写真家の本城直季さんが、40メートルもあるクレーンの上からカメラを構えて、

おしえて！夢みる値段

このコーナーでは、特集にまつわる「夢みる値段」を、ちょっとくわしくご紹介します！

[15,000円]

今回ポスターでとりあげたのは、横浜水天宮そばの「飯倉写真館」で写真を撮った場合の値段(八つ切りサイズ・2ポーズ)です。3代続く飯倉写真館は100年を越える老舗。いまでもフィルムで撮影してくれるこだわりの写真館です。実はここ最近、家族写真を撮りにくるお客さんが増えているそう。家族の絆が改めて見直されているからかもしれませんね。みなさんも家族のいまの姿を写真で残してみたいはかがですか？

飯倉写真館：横浜市南区南太田2-7-14 TEL 045-741-7539

おかねVSきずな

そ

参加くださった大人のみなさんに質問をしました。「おかね」と「絆」、より大切なのはどっち？。その結果は97%が「絆」を、のこりの3%が「おかね」を選びました。さて、この結果について考えてみましょう。おいしいものを食べたい、憧れの写真家になりたい、この人と結婚したい、素敵なおうちが欲しいなど、夢や目標を考えてみてください。そう、おかねは、生きるため、夢や目標をかなえるために必要な人生に寄り添うツールなんです。

「絆」と「おかね」を直接比べると難しいことですが、人生を豊かに生きていくために、働いて収入を得たり、貯めたり、使ったりと、いつも「おかね」についても一緒に考えましょ。

絆

2月頃、本城直季さんの『あなたのそばで夢みる巡回写真展』を横浜銀行本店にて開催します。今回は、ポスター・新聞表紙の写真に加え、上記撮影会の様子も展示します。くわしくは、後日ホームページにて。

バックナンバーを横浜銀行ホームページで公開中！ トップ画面左下のバナーをクリック！

さらにくわしいキマグレンのインタビューは、横浜銀行ホームページをご覧ください(2月初旬までに掲載予定)。